

巻頭言 「人間に対する愛」

宇野 元

2022 年もクリスマスの時期を迎えました。この季節、一人の方の生涯の歩みをおぼえるよう招かれています。その誕生と苦難と勝利の歩みを。この方の苦難が示されます。しかしまた苦難に打ち勝つ勝利が示されます。

クリスマス——イエス・キリストの誕生を記念する日は、神ご自身が私たちの世界にみずからの場所を求められたことを知らせています。神の子は、私たちの現実の場、私たちの葛藤の場、喜びを経験する場所であると共に多くの問題に巻き込まれる場所、多難な場所をみずからの場所とされました。

聖書が知らせるよきおとずれは、現代の私たちにとっても新しい知らせです。神が人になられた。無力なおさなごとして世に生まれ、生きて働き、人間の喜び苦しみを経験された。このことは甘いセンチメンタルなお話ではありません。神は私たちの現実の中に来られ、人として生きた。しかも、御子は年若い女とそのいいなずけの男のあいだに、町の片隅で誕生された。私たちの力が集まる場所ではなく。そしてこの出来事に羊飼いたちが立ち会う者とされた。町の周辺をみずからの場所とする人々が。聖書はその理由を語ります。神は「世を愛された」(ヨハネ福音書 3, 16)、すなわち、寄る辺のない私たち人間を愛されたからである。「わたしたちの救い主である神の慈しみと、人間に対する愛とが現れた」(テトスへの手紙 3, 4)。

暗い知らせ。不和と憎悪。暴力。この年の出来事の中で、私たち自身が冷たくなる危険があるでしょう。世界の厳しい現実の中で、私たちはクリスマスの知らせを必要としています。まさに世界が必要としています。神は、どこか遠いかなたにいます存在ではありません。私たちの現実と共にあり、新しいものを生み出してくださる方です。神は矛盾だらけの世界に背を向けられません。

また、熱狂の落とし穴に気をつける必要もあるでしょう。自分の理想によって他者を裁かないように。まわりを否定する者にならないように。私たちは世界の中で建設的な存在であるよう導かれています。なぜなら、私たち人間に向けられた最も深い知らせがクリスマスに与えられているからです。神の「人間に対する愛」に生かされ、生きるように。